

転倒災害防止のためのポイント

武生労働基準監督署

1 転倒災害発生状況について（別紙1「転倒災害発生状況分析」参照）

今年の武生労働基準監督署管内における労働災害発生状況については、転倒災害の発生割合が非常に高くなっております。さらに本年は、年始当初冬季の転倒災害は例年同様の発生状況でありましたが、7月になって急増する結果となっております。

災害の内容を確認すると、帰宅途中等の歩行中に、通路（オフィスフロアや階段、駐車場等）において転倒する事案が散見されております。このような災害は、どの事業場においても発生する可能性があることから、以下の項目を徹底することが有効です。

- （1）リーフレット「転倒災害を防止しましょう！」に記載されるチェックポイントによる作業場の点検及び、整備による対応が重要です。
- （2）リーフレット「5S活動に取り組みましょう」に基づいた5S活動の徹底により、不安全状態、不安全行動防止が期待されます。

2 自主点検の結果について

別紙2「転倒災害自主点検の結果について」のとおり。

3 冬季の転倒災害防止対策について（別紙1「転倒災害発生状況分析」参照）

これから冬季に向けて、路面凍結などによる冬期特有の転倒災害の発生件数が増えることも想定されますので、「積雪・降雪による労働災害をなくそう！」に基づいた備え（凍結防止剤、滑り止め用のマットの購入等）、及び労働者への教育等により対策を講じてください。

4 年齢による転倒災害防止対策について（別紙1「転倒災害発生状況分析」参照）

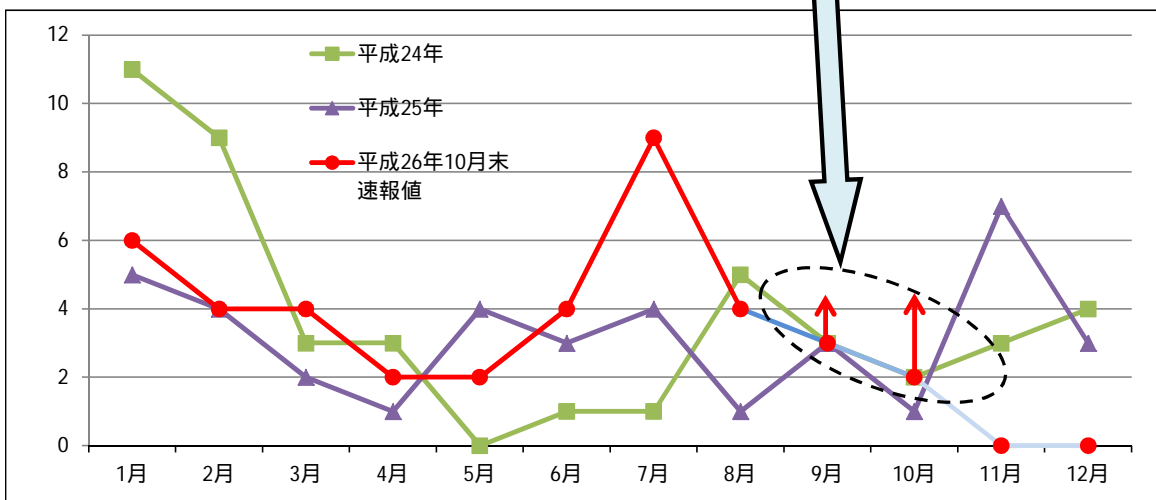
高齢労働者に対する転倒防止対策として「転倒災害を防止しましょう！」の裏面の着用する靴に着目した対策が有効です。なお、高齢労働者だけではなく、20代、30代の労働者でも転倒災害が発生している状況を鑑み、会社で指定する靴の選定時において参考にしてください。

転倒災害発生状況分析

災害発生月別

月	平成24年	平成25年	平成26年 10月末 速報値
1月	11	5	6
2月	9	4	4
3月	3	2	4
4月	3	1	2
5月	0	4	2
6月	1	3	4
7月	1	4	9
8月	5	1	4
9月	3	3	3
10月	2	1	2
11月	3	7	0
12月	4	3	0
合計	45	38	40

直近の月分は、速報値のため、
さらに件数の増加が見込まれます。



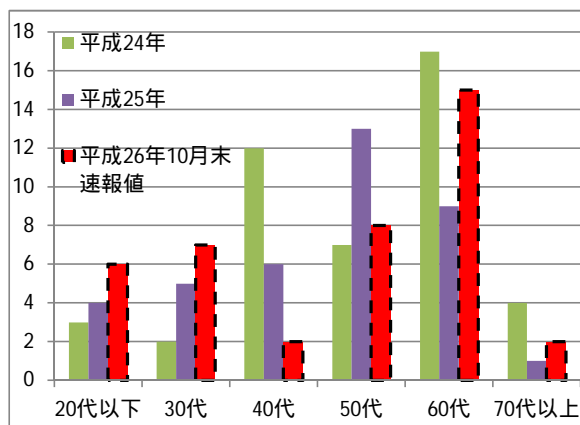
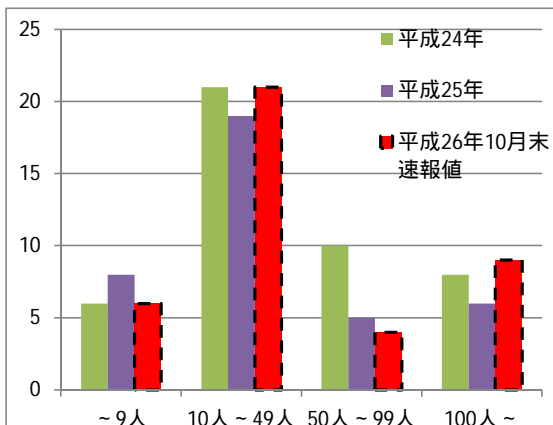
企業規模別

労働者数	平成24年	平成25年	平成26年 10月末 速報値
～9人	6	8	6
10人～49人	21	19	21
50人～99人	10	5	4
100人～	8	6	9
合計	45	38	40

年齢別

年代	平成24年	平成25年	平成26年 10月末 速報値
20代以下	3	4	6
30代	2	5	7
40代	12	6	2
50代	7	13	8
60代	17	9	15
70代以上	4	1	2
合計	45	38	40

平成26年 年末時点における年齢



転倒災害自主点検の結果について

平成 26 年 7 月 11 日に、平成 24 年以降、転倒災害が多かった業種（製造業、商業、保健衛生業、接客娯楽業）の 199 事業場に対して、以下の質問事項について自主点検を実施いたしました。

- 1 転倒災害防止対策について安全衛生委員会等において検討されていますか？…はい いいえ
- 2 5S 活動について取り組んでいますか？ ……はい いいえ
- 3 白線、柵などで作業場所と通路は区別されていますか？……はい いいえ
- 4 通路、階段に物が置かれていませんか？ ……はい いいえ
- 5 通路が突起物、凹凸、段差等不安全な状態になっていませんか？ ……はい いいえ
(やむを得ない場合、標識や着色表示で注意喚起していますか？)
- 6 通路に油や水がこぼれていませんか？ ……はい いいえ
- 7 通路を横切るコード、ホース、配管類はありませんか？……はい いいえ
- 8 出入り口の付近の広さは十分ですか？ ……はい いいえ
(出入り口に近接して物が置かれていませんか？)
- 9 明るさが不十分な場所で通路を照らす照明はありますか？……はい いいえ
- 10 階段に手すりがありますか？ ……はい いいえ
- 11 履物は、滑りにくい履物を指定していますか？ ……はい いいえ
- 12 その他の転倒災害防止対策として、事業場としての対策は講じていますか？…はい いいえ

※ 「いいえ」にチェックが付いている事項に改善措置が望まれます。すべての項目が「はい」となるよう、事業場として対策を講じて頂きますようお願いいたします。また、転倒災害防止には、労働者の作業服、安全な行動面として、以下の項目を徹底させることが重要です。

- 13 ポケットに手を入れて歩行していませんか？ ……はい いいえ
- 14 両手で物を持ち、足元が確認できない状態で歩行していませんか？……はい いいえ
- 15 手すりに添って階段を昇降していますか？ ……はい いいえ

※ 上記 13 から 15 の項目については、事業場内ルールの作成及び、当該ルール徹底のための教育等により対策を講じることが重要です。

当該自主点検の結果につきましては、当署あて報告もいただいているところであり、以下のような特徴があり、それぞれ対策を講じる必要が認められます。

転倒災害においては、リーフレット「5S 活動に取り組みましょう」に基づいた 5S 活動などを重点に実施することや、特に今後多くなる冬季特有の転倒災害に対しては、リーフレット「積雪・凍結による労働災害をなくそう！」1 ページ目による「積雪・凍結で転ばないコツ」としての労働者自身の対応及び、「積雪・凍結でこるばせないコツ」としての事業者が行う対策が重要です。

1 自主点検結果について

事業場の労働者が 50 人未満の規模の事業場においては、質問事項の 2,4,9,10,13 の項目において実施率が高く、質問事項の 1,3,5,6,12,13 の項目につ

いて実施率が低いという結果となりました。また、労働者数 100 人以上の規模の事業場においては、質問事項の 1,3,6,14 の項目において実施率が高く、質問事項の 8, 9 の項目において低いという結果となりました。

2 規模の小さい事業場の傾向と対策について

小規模の事業場においては、労働者自身が各行動時に留意しなければならない事項については実施率が高く、事業場の規模が小さいほど、労働災害防止について経営層と労働者が一体となって対策を講じている現状がうかがえます。また、質問事項 9、10 については、設備面の事項ではありますが、規模が小さいことから対策箇所が限られ、講じることが可能であったのではないかと分析されます。

これらの結果は、逆に言えば、労働災害防止対策を労働者の注意に頼ってしまっているとも考えられますので、転倒災害防止対策においては、実施項目の実施率の低かった組織的な検討、対策を講じることにより、対応することが効果的です。

3 規模の大きい事業場の傾向と対策について

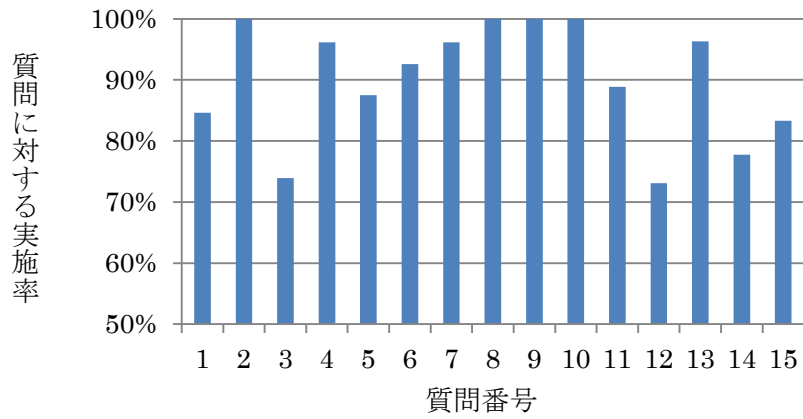
事業場規模の大きい事業場で実施率の高い質問事項 1,3 については、組織的に検討対応できている状況がうかがえます。また、質問事項 6,14 などは、労働者自身が積極的に対策に応じなければならない事項でもあり、各行動の基準（作業標準）等において対策が考えられたのではないかと分析されます。

組織的に対策が講じられてはいますが、当該対策の効果を得るためには、基本的な、リーフレット「5S活動に取り組みましょう」に基づいた5S活動の実施や、労働者の安全意識の高揚への取り組みが有効です。

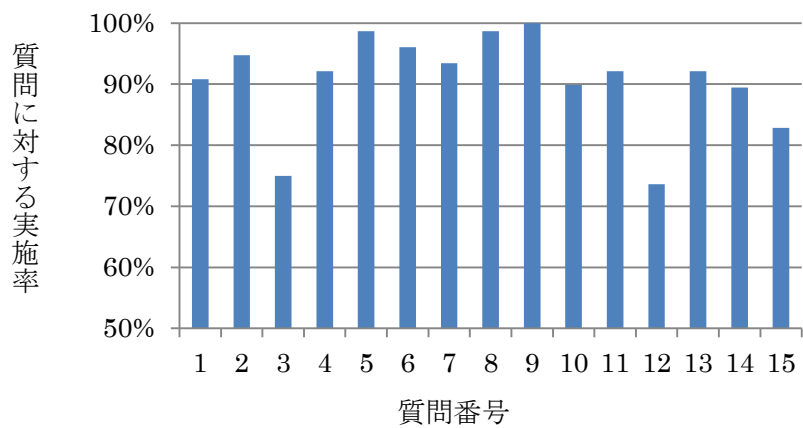
特に労働者の意識高揚のために、リーフレット『「危険マップ」で危険の見える化を！、「危険ステッカー」で危険の見える化を！』による対策が効果的です。

4 分析結果（グラフ）

事業場規模＜労働者 50 人未満（母数 26 件）＞



事業場規模＜労働者 50 人以上 100 人未満（母数 76 件）＞



事業場規模＜労働者 100 人以上（母数 56 件）＞

